



あなたも今日から、やさしい日本語。

やさしい日本語は、外国人など日本語があまり得意でない人のために、わかりやすい言葉や表現に言い換えた日本語のこと。小学校2～3年生で習うような簡単な漢字と、ひらがな・カタカナを使って言い換えます。

また、外国人だけでなく、高齢者や障害のある方とのコミュニケーションにも役立つ、「言葉のバリアフリー」です。

あなたも今日から、やさしい日本語を使ってみませんか。

やさしい日本語は「はさみの法則」がポイントった!

はっきり言う

- あいまいな表現はしない
- 明瞭に発音する(ゆっくり言うのとは違います)

さいごまで言う

- 文末まですべて言う(文末をあいまいにして、相手に察してもらうことは難しいです)

みじかく言う

- 一文を短くする
- 余分な説明は入れない

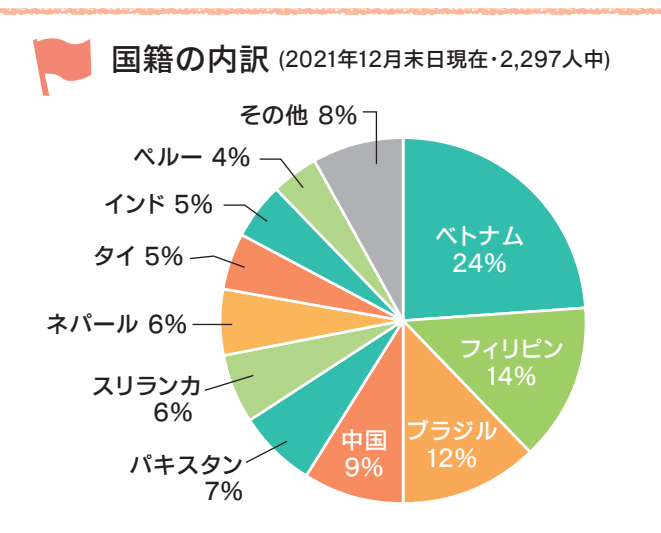
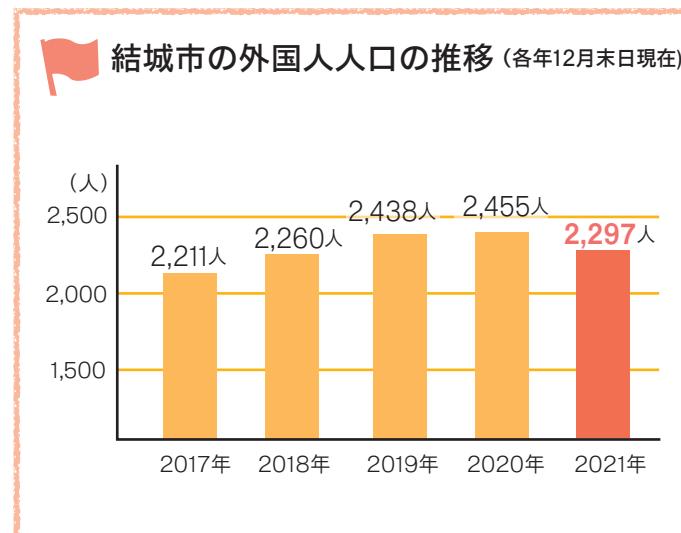
その言葉、やさしい日本語で言ってみよう!

言い換えに正解はありません。相手の目線に立って言葉をえらぶことが大切です。

ご用件を伺います	→ どうしましたか?	デマ	→ うその話
少々お待ちください	→ 少し ^ま 待ってください	土足厳禁	→ ^{くつ} 靴をぬいでください
無料です	→ お金 ^{かね} はいりません	余震の恐れがあるため十分に注意してください	
再度お越しください	→ もう一度 ^{いちど} 来てください	余震 ^{よしん} (あとからくる ^き じしん)に気を付けてください	
今朝	→ ^{きょう} 今日の朝 ^{あさ}	日常生活で知っておいた方が良い言葉はそのまま使い、あとに説明を加えます。	

これからは“お隣さん”が外国人の時代

結城市には、現在約2,300人の外国人がおり、そのうち約9割の世帯は外国人のみで構成されています。国籍の内訳は、2010年前後はブラジルが最も多かったのが、現在はベトナムが最多となっています。また、割合の少ない国を含めると、約40カ国もの外国人が住んでおり、多国籍化が進んでいます。「のびる会」などやさしい日本語を広める皆さんは、多様な外国人と市民とを結ぶ“橋渡し役”としても貢献しています。



1994年からボランティアで日本語教室を運営している「のびる会」の皆さんにやさしい日本語の大切さをお聞きしました

外国人に日本語を教える中で、「やさしい」とは「簡単」だけでなく、「正しく伝える」ことが大切だと感じています。

例えば「いいです」「大丈夫です」など、使い方によって真逆の意味になるような言葉は、日本語特有の“あいまいさ”を残した表現です。「イエス」「ノー」がはっきりしている外国人が正しい意味を理解するのは、とても難しいです。

短い単語をつなげるだけでもいいので、「はい」なのか「いいえ」なのか、自分の意思を正しく伝えることが大切です。

生徒さんは日本語を学ぶだけでなく、「日本の文化や考え方を知りたい」という方がたくさんいるので、一緒に日本食を作ったり、桜の下で花見をしたり、日本文化を味わう活動もしています。今はコロナ下で活動が制限されていますが、また気兼ねなく交流したいと思います。これからは、“お隣さんが外国人”が増えていく時代です。その時に、この「やさしい日本語」を思い出してください。こちらが思いやりをもって話しかければ、相手も自然と心を開いてくれるのではないのでしょうか。



あと、ぜひ若い人たちにも外国人と触れ合ってほしいです。夏休みなどに、地元の子もたちが先生役となって日本語を教えてもらうのいいと思います。

のびる会では
日本語を学びたい外国人生徒
日本語を教える
ボランティアスタッフ
を募集しています

「外国人の従業員に日本語を習わせたい」など、雇用主の方も気軽に問合せください。

問 結城日本語教室のびる会事務局(市企画政策課内)
☎45-6534